

## ヒバクシャ国際署名をすすめる青森県連絡会の終結について

日頃、核兵器廃絶運動について温かいご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、当連絡会は国際署名を進めるため2016年11月に発足し、主として署名の集約を主眼として、また核兵器廃絶のための諸活動をすすめてまいりました。当連絡会には最終的には33団体3個人の加入を賜りました。連絡会の活動として署名活動の他、講演会、展示会の開催応援、地方議会・市町村・地域社会への協力依頼、請願などを実施してまいりました。主眼とした署名活動は、連絡会発足当初に予定していたとおり、本年2020年9月を以って終了することになりました。9月末日に最終集約した署名数は、116,202筆となり、当初の目標数20万筆には届かなかったものの、青森県民10人につきほぼ1人は署名に応じてくれたものとなりました。勿論、署名に協力してくれた県民の方々には厚く御礼申し上げる次第でありますと共に、署名活動を支えてくれた構成メンバーの方々のご協力とご努力に対し、心から感謝申し上げますところであります。

この4年間の連絡会活動で、私共は、核兵器廃絶活動は夫々の組織に於いて単一に行動してきたのを超えて、共同体として行動することになりました。同じ目標に対し情報を交換・共有し、チームプレー的に行動することの大事さを認識することができました。

また、お互いに連帯する意識が醸成されたことは有意義なことでした。このような認識、連帯感は、連絡会が解消したあとも連絡会的な連繋を模索すべきでないか、検討に値するものと考えます。

連絡会が発足してからの4年間を振り返ってみますと、核兵器廃絶に向けての世界的な高まりをみせた4年間であったと思います。

アメリカ前大統領オバマ氏が、現役大統領として広島を訪問、バチカンのローマ教皇の長崎・広島訪問、国際NGOのICANによるノーベル平和賞受賞、そして2017年7月の核兵器禁止条約122カ国の賛成(10/5現在、46カ国が批准、50カ国批准で発効)、核兵器保有国とその同盟国(日本を含む)が反対を表明、などなどでした。

核兵器廃絶への道程は、上記のとおり高まりを見せている反面、最近の米露など核保有国の動向、北朝鮮の核兵器をめぐる動き、中東諸国の紛争などからみて明るい見通しを立てることができない情勢があり、短い年月の間に問題解決ということはできないと思われれます。それだけに、今後も辛抱強く活動を継続しなくてはならないと感じているところです。

これまでの国際署名にあたって、「被爆者が訴える・・・」と運動をすすめてきましたが、被爆者の減少と高齢化の進展もあり、次の世代による核兵器廃絶活動へと移行する時期になりつつの感があります。

どうか、各位におかれましても、長期的な、未来志向的な立場でのご協力を期待申し上げます。

この時期、新型コロナウイルス問題で難儀な日々をお送りのことと思いますが、ご健康に留意され、ご活動されることを願っております。

以上、簡単ながら、連絡会終結にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2020年10月11日

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる青森県連絡会

共同代表	青森県原爆被害者の会	副会長	田中	正司
共同代表	原水爆禁止青森県民会議	代表	今村	修
共同代表	原水爆禁止青森県協議会	会長	谷崎	嘉治
共同代表	青森県生活協同組合連合会	会長	平野	了三